

第1回総合計画審議会評価専門部会 グループB-2

7月22日(水) 18時30分～ 地下 第5会議室

出席者 佐藤 片桐 欠席者 今田(書面あり) 野崎(書面あり) 黒田

ファシリテーター 岩野 板書 大石

◎環境保全とエネルギー

質問

委員 芽室公園 ビジターセンター開設予定だと思いますがいつごろか？

齋藤課長 令和10年4月には供用開始予定 ビジターセンターも入る

委員 日高山脈の協議会の役割方向性と記載があるが、どんな協議会なのか？

齋藤課長 十勝管内の6町村で 十勝の観光連盟と協力しながら帯広空港からの周遊ツアー
冊子の作成・配布を行っている。協議会会長は手島町長

委員 募集はどんな人を対象に

齋藤課長 小さい飛行機なので、旅行会社が募集をした。日高山脈を上から見ている。

委員 いろいろな山が見えていい取り組みである。

委員 グッズ作成とは何を予定しているか

齋藤課長 タンブラー、Tシャツを作っている。

委員 他に作る予定はあるか

齋藤課長 今のところはない。

委員 太陽光設備の乱立について釧路で問題になったと思うが

齋藤課長 釧路市は新たに条例を整理した。北海道は制定するつもりはない。
その自治体が規制したい場所を地域に応じて制定することとしている。

委員 芽室町は作るのか？

齋藤課長 条例を作ろうと動き始めている。年内に制定を考えている。

委員 こんなに問題になるとは思わなかった。

齋藤課長 設置業者が地元民に理解を得ることをしていない。それもあって、強い規制にな
っている。

評価

委員 妥当

委員 妥当

委員 妥当

委員 妥当 循環型エネルギーやゼロカーボンなどの推進は、地球温暖化対策や自然環境の
保全に繋がり、また環境美化活動は、不法投棄やポイ捨てなどへの心理的抑止
あるうえ、景観向上などに寄与することから、課題に沿った取り組みだと考え
られるため。

今後の取り組みに対する意見

委員 なし

委員 なし

委員 別紙のとおり

→斎藤 北海道の補助金では新築住宅の補助がありそのメニューの活用を考えていきたい、財政的な面もある、手を出せていない。庁内で検討を進めたい。

◎廃棄物の抑制と適正な処理

質問

委員 電池の回収が非常に難しい。電池の区別をきめ細かく、絵で見せることがいいとは思うが？

平山係長 ゴミの手引きで電池の捨て方、広報誌でも周知しております。ただ、適当に捨てている人もいて、発火につながることもある。LINEなどの周知も行いたい

齋藤課長 リチウム電池でもいろいろあり、かなり複雑である。徐々にバージョンアップを図り目に届くようにしていきたい。新しい製品がつぎからつぎと出てくるので対応に苦慮している。徐々にバージョンアップしていきたい。

平山係長 適正な回収ルートが無い場合は町で対応する

委員 色付き指定ゴミ袋について、札幌市はやめたがどうかと思っている。

細分化してゴミの分別をできればと思う。新しくりりんの分別は共通でやること進めてはどうか。

齋藤課長 ゴミ袋 新しくりりんを動かすにあたって、まちはどうするか

色付きを使っているのは芽室町だけ。令和8年度に結論を出す。

札幌市の事例は、ナフサ不足で市販の透明袋を使って良しとしている。

若干考え方が違っている。

色付きの不安定さがあり、結論を出していきたい。

全市町村が新しくりりにゴミが入る。8市町村はウインクリンにもっていったところ。

住民審議会で2026年に色付きゴミ袋の結論は計画の中で整理をしていく。

評価

委員 妥当 これから難しくなっていくのでがんばってもらいたい

委員 妥当

委員 妥当 町内会のゴミステーションの設置の有無は町内会で検討してもいいのでは？

委員 妥当 成果目標①の実績からも大きな後退ではないと思いますが、現状行政としてもすぐ行えるような技術革新がないため。

今後の取組

委員 町民から資源ごみの有価物をなんとか町内の資源にできればいいと考えているがなかなか難しいかもしれない。

平山係長 重量に応じた助成金を出している。それ以外に各種団体も対象にしている。

委員 野菜残渣を砕いて、下水に流している地域もあるが芽室町はどうか？

齋藤課長 帯広市が試しでやった。下水管に負担を与えるのでどうかという声がある。

町民からは電動コンポストの助成の声がある。

ゴミの減量には一役かうが。EM菌で対応する地域もある。

計画の中でも管内の自治体の話を聞いてまちの方向性を考えていきたい。

平山係長 毎年要望がある。性能も上がりにおいがあまりしない。

齋藤課長 バイオマスを行う時生ごみはかなり有益で、ガス、発電につながる。

民間資本と協力しながら取り入れることができればと思う。

委員 子どもたちへの教育

齋藤課長 小さい時から習うことで、植えつけられることなので、環境教育をどうしていくかは大きい所だと思うので、学校と協力するなど町の取り組みとして検討していきたい。

◎道路交通環境の整備

質問

委員 コミュニティバスの利用向上を図ってほしい

間口除雪、福祉除雪は有料になってから0になった。検討の必要は無いのでは？

大石係長 じゃがバスは年間16,000人程度 1便当たり平均9.2人

デマンド運行を検討中 バスも小さくすることも検討しているが、シルバーカーが乗れないこともあり、悩んでいる。

岩波係長 ゴミサポートをやっているところだけ間口除雪。

委員 間口除雪は無理だと思う。みんな堅い雪に困っている。路面整成をやめて広くさら々と除雪したほうがいいのではないかと思う。

岩波係長 除雪もタイミングもある。降雪後は路面生成をしている。がたがたの時は間口に雪を置かないようにしている。

委員 除雪しすぎて道路が欠けているところもある。

委員 福祉除雪は1メートル幅の玄関までということで認識をしています。

評価

委員 妥当

委員 妥当

委員 妥当 公共ライドシェアの実証実験など役場としていろいろな対策を行っているから

委員 妥当 成果目標も著しい低下ということでもなく、冬期間の移動手段の確立、除雪状

況など個別対応が難しい行政として、十分役割は果たしている為

今後の取組

委員 農村地帯はどのように対応するか

→タクシー助成を実施している。

委員 意見無し

委員 じゃがバスの予約制

免許返納者の負担できる体制の確立・情報の発信